

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 24年 10 月 16 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204748		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 夕顔の家		
所在地	広島市安佐南区八木8-9-23 (電話) (082)832-0355		
自己評価作成日	平成24年 9月 12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204748-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204748-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年10月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ルネサンス風の建物の中で、明るく清潔で落ち着いた雰囲気を大切にしており、入居者一人ひとりが、その人らしい生活を送れるよう支援しております。地域行事等への参加を積極的に行っており、地域へ溶け込んで生活が出来るよう支援しております。居室からは外の日差しが入り、明るく開放的です。管理栄養士による、栄養バランスのよい手作りの食事を提供しており、医師による週3回の回診や看護師もあり、心も体も快適で安心した生活を送る事が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、懐かしい田園が残るJR可部線と国道54号線に囲まれ、マンションと旧家を思わせる和風家屋が混在する閑静な中に活気が感じられる環境に立地している。通路を挟み和と洋の2ユニットのホームは相互に自由に交流できる。事業所の特色は①ホーム主催の季節行事に力点を置き毎年2カ月に1回実施し、地域の参加と一体化に取り組んでいる。②感染症撲滅の取り組み；母体の医療法人の感染症・衛生管理等徹底した研修と訪問看護師の指導の下、全職員で感染症予防に取り組み3年間発病ゼロの成果を継続している。③地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座を地域企業で開催し、事業所の認知症アドバイザー2名が講師とし協力されている。今後さらに行政や地域との協力関係の強化に取り組まれている。この3点に重点的に取り組みながら、全職員いつも笑顔で利用者に寄り添い、利用者本位のサービスに努められている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域での役割、人としての尊厳を考え、地域住民の方々や利用機関とG.Hの関係が保て、利用者が安心して暮らせるよう家族と共に取り組んでいる。また、理念に向けて具体的に継続的な実践方法について、管理者、職員はミーティング等の時に話し合い、共有している。	毎年1月、職員全員で討議し、法人理念に基づいた年間目標を作成、毎朝唱和することにより、意思の統一を図ると共に実践に活かす様取り組まれている。今後は年間目標の進捗状況を中間時点で検討し、全職員の相互研鑽の下、より一層の理念の実践とスピードを追及されるよう期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の祭りやいきいきサロン等の参加や、小学生の下校時に施設近辺で安全確認を一緒に行っている。	開設時は、なかなか地域に溶け込む事が困難であったが、地道な努力が実り、地域行事のお祭りでは、神輿が事業所まで出向いてきたり、いきいきサロンへの参加、小学生の下校の見守り、又事業所行事への地域の方々の参加や小学生の立ち寄り等、相互に密接な交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所主催の勉強会や行事等に参加していただく時や、集会所で集まりがある時に少しの時間でも認知症に対する理解を促している。また、日頃からも地域の方々へ声をかけて認知症を相談していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議だけに留まらず、サポーター養成講座の参加の時や、G.H、地域の集まりの際には情報交換や意見を聞き、「その人らしく」に向けて地域に発信している。また、具体的に継続的なサービスの向上を行う為、その都度、見直しを行っている。	運営推進会議は、行政・地域住民・利用者の家族・利用者、及び職員と各方面の方々の参加の下、定期的に開催され、事業所の情報発信や意見交換が行われ、サービス向上に活かされている。今後は、開催日を工夫され、町内会役員の参加やより多くの利用者家族の参加が期待される。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険の手続きや事業所の実情、ケアサービスの問題点、現場で直面している議題に対して積極的に伝えながら解決に向けて協力関係を築く取り組みを行っている。	市の担当者とは、運営推進会議や日頃から種々の接触の機会を捉えて、情報の共有を図り乍、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員が身体拘束に対して理解をしている。また、家族等から安全のため拘束や鍵かけ等の要望があった場合でも、そのリスク、弊害を説明し事業所の工夫や取り組み方針を示し、抑圧的のない暮らし支援を行っている。また、24時間SECOM完備をしており、目の届かない場所でも察知できるようにしている。	身体拘束をしないケアの実践については、定期的に研修を実施し、言葉による拘束についても、職員に十分な認識を得るように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法についての研修会や勉強会に積極的に参加し、さまざまな虐待に対して理解しており、遵守に向けた取り組みを行っている。また、関係機関との協働や管理者や専門職員へ報告書を提出し広く意見を求めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修会や勉強会に参加し、身体的、精神的、経済的状況を管理者、職員が把握しており、制度の活用に努めている。また、随時関係者への案内も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、文章の提示だけに留まらず、利用者や家族に不安がないよう十分な説明をする事と、担当職員は相談等があれば柔軟に対応し、納得していただいた上で手続きを進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	市町村窓口の案内やG.Hの相談窓口、運営推進会議の時に意見・苦情等を集めている。また、日頃来所された際にも積極的に全職員が話しかけ、些細な意見や要望も見逃さないよう努めている。集まった苦情記録をもとに、その都度ミーティングを行い、経過、結果報告を行うとともに、解決に向けて取り組んでいる。	利用者や家族等の意見や要望は、「洗濯により衣服が少し縮んだ」と言う様な申し出等々、細大漏らさず職員全員が把握し、苦情記録に記載の上、経過と対策を話し合っって今後の方針を共有し、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけや聞き出しを行っている。また、会議において発表の場を設けている。運営に関する意見を管理者を通じて代表者へ随時報告がなされている。</p>	<p>毎日の申し送り時や2カ月に1回開催される会議や懇親会にて、広く全職員から意見・要望を聴取し、年2回開催される法人全体会議で報告し、緊急を要するものについては随時代表者へ報告され、運営に反映されるよう取り図られている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>常に向上心を持って働けるよう、日頃の努力や実績等を評価し、ベースアップや役職手当をつけている。また、資格取得に向けての支援も行っている。環境整備では、休憩場所と時間を設け、職員同士の間関係の把握に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の質の向上に向けて内外で開催される研修にはなるべく多く職員が均等に受講できるようにしている。また、研修後はミーティングや勉強会等の時に発表、報告を行い、働きながら実践できる取り組みを検討している。また、報告書は全職員がいつでも閲覧できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>他施設の研修や運営推進会議の参加、サポーター養成講座を通じて積極的に意見交換や情報収集を行い、サービスの質の向上の為、日々福祉の充実に向け活動している。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>必ず本人に会って、不安や求めている事、心身の状態に向き合い、利用者が受け入れられるような関係作りに努めている。また、専門的な悩みなども担当者も交えて相談が受けられる体制を整えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの家族の苦労や今までのサービス利用状況等、これまでの経緯についてもじっくり聴くようにしている。これから家族が願っていることも理解し、不安や思いを受け止め支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思いや要望を聴く時間を十分に設け、状況を確認した上でできる限りの対応をしている。また、早急対応を求めている相談者には柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	その方が持っている力、どのような生活を望まれているかを把握し、一人ひとりの日常生活に合わせた活動を共に行っている。また、行事等の時に役割を持つ等の場面作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は御家族の思いに寄り添いながら、日頃の状態や思いを手紙等でこまめに報告するとともに、本人を共に支えるために御家族と同じような思いで支援している事を心がけている。また、来訪時には、近況報告をし、本人と御家族の掛け橋になるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまで培ってきた関係を断ち切らないように手紙や電話等を利用して関係が途切れないように支援している。また、知人友人等に会いに行ったり、墓参りや、行きつけの温泉に行ったりして、継続的な交流ができるよう働きかけている。	家族や友人等、馴染の人が来所された時には、職員は「おもてなしの心で」接し、種々気配りに努めて、誰でも気易く訪ねて来られるよう配慮したり、お盆の墓参りや、行きつけの温泉に出かける等、馴染みの関係の保持に努められている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間での関係作りでは、孤立する事なく、共に生活が楽しめるよう支援している。個別に話しを聴いたり、相談に乗ったりして利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者の事情等で利用が終了した後も相談窓口を通じて、関係性を大切にしている。また、転居先に職員が訪問するなどして関係が断ち切らないように働きかけている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人を交えてのアセスメントで生活歴や経験等の把握と、日々の言動や表情から真意を探ったり、それとなく確認をしている。また、どのように暮らすのが最良なのかを家族を交えて話しをし、それをサービス計画に反映させることで安心した生活が送れるよう支援している。	利用者一人ひとりの思いや意向については、職員が日々の寄り添いや会話・表情から汲み取り、家族の希望を聞き乍ら、アセスメントで得られた情報を考慮しつつ、その把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら、本人に関わりのある方、今までサービスを受けていた事業所等から情報提供などの協力を得る事で、今までの暮らし方に近い環境、関係を築くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員全員がいつでもカンファレンスシートを見る事ができ、利用者一人ひとりの能力や生活リズムを把握できるようにしている。また、変化を発見した場合には都度、更新、見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の思いや意見を反映させるように各専門職からの意見やアイデアも取り入れながらアセスメントを行い、本人がその人らしく暮らせる支援として何が必要で何を求めているかを中心に介護計画を作成している。</p>	<p>3カ月に1回定期的に介護支援専門員を中心に管理者・職員でケアカンファレンスを行い利用者・家族の希望を踏まえた介護計画を作成している。又、モニタリングについても、職員全員で取り組み、状況に応じ都度見直しも行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>申し送りで利用者の変化を報告し、その都度記録、確認を行っている。連絡ノートや個別記録には重要事項や職員しか知りえない事実やケアの気づきを具体的に記し、職員で共有しながら介護計画に反映し日々の実践に向けて取り組んでいる。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者、家族の状況や要望に応じて宿泊や食事の提供を行っている。また、個人の状態によって、協力病院の通院支援や転院、同系列の転居など、その時々によって柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が生き生きと安心した生活が送れるように、各機関や町内会等に運営推進会議の参加を促し、意見交換や協力を得て支援を行っている。また、集会所で行われるいきいきサロンの参加や、マイクロバスを借りて公共施設へ行くこともある。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人もしくは家族の希望する医療機関で受診している。医師の訪問診療、24時間受け入れ病院連携（安佐市民病院、野村病院）各医療機関関係者確保（内科、外科、皮膚科、歯科）により、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医への受診や協力医療機関から週3回の往診、訪問看護ステーションから週2回の看護師の訪問を受け、緊急時には24時間の医療連携体制が組まれており、利用者・家族にとって適切な医療支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の状態をよく知る看護師が常駐しており、日々の健康面や医療面について他の職員と情報を共有し対応している。また、緊急時の対応、薬等について勉強会を開き、協働体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院によるダメージを軽減する為に、家族、医師と相談しながら医療機関に情報を提供し、スムーズな退院に繋がるようアプローチしている。また、可能な限り職員が見舞いに行くようにし、家族と回復状況の交換を行うとともに、速やかに退院計画を立案し、受入れ体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時や状態変化がある際には本人、家族、医師、看護師、ケアマネ、介護スタッフとで話し合いを行い今後の方針を決定している。また、その時々可能な事、困難な事を説明し、本人の尊厳を考慮しながら本人、家族が納得した最期が迎えられよう支援している。また、終末期や臨死期のケアについても説明を行っている。	「看取りの指針」を作成し、入居時に本人・ご家族に説明し、理解・納得を得ている。事業所として終末期を迎えた事例は無いが、医師からの講習を受けたり、グループ内事業所の体験談を参考に勉強会を開催し、常々万全の体制で臨めるように準備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルにもとづき、当理事長林Dr、西野Dr、看護師の指示指導のもと、全職員が対応できるように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身につけるよう取り組んでいる。また、消防署等の主催で行われる応急処置の研修にも参加をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署主催の消防訓練を年に2回利用者と共にっており、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練や点検を行っている。また、防火管理者を中心に防火についての勉強会を行っている。町内会を通じて火災等が起きた時の協力も得ている。	スプリンクラーが設置され、年に2回（内1回は夜間を想定）消防署立会の訓練を実施し、地域の協力体制や同一法人の他事業所との協力体制が構築されている。災害時に於ける職員や地域住民の詳細な役割分担表を作成し、緊急時に於けるスムーズな連携・対応に取り組まれている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員全員が利用者、家族に対し敬意を払い、本人本位に沿ったさりげないケアを心がけ、羞恥心に配慮して尊厳を維持している。また、尊厳についてやプライバシー保護の勉強会を行っている。個人情報については外部に漏れないよう事業所管理を徹底している。	管理者の最重点取り組み事項として捉え、職員全員が定期的に研修会で勉強を重ね、日々の言葉遣いや動作の中で、利用者の人格の尊重と、誇りやプライバシーを損ねないよう細心の注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	それぞれの反応や表情から意思表示を素早くキャッチし理解した上で、個々の能力に合わせた説明を行っている。また、自己決定、意思表示が困難な方には、話しやすい利用者や職員が間に入り自己決定ができるよう働きかけている。日常の中でも好みや希望など本人が選び決めやすい場面作りや関係作りができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの生活リズムやしたい事、思いを尊重しながら臨機応変に対応している。また、個別支援で、近くのコンビニへ買い物やデパートなどの外出支援等、その日その時の希望や要望を本人と相談しながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人ひとりの個性や希望、これまでの生活歴やその時の本人の意向を大事にし、その人らしいお洒落ができるよう支援している。また、季節感や清潔感のある服装や髪形を本人の希望に沿って行っている。行事等の時は、行事に合った装い（浴衣など）や、化粧などのおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人ができる力を活かしてもらう為、無理のない程度に準備や後片付けを手伝っていただいている。空いている席で共に食事を楽しみながらさりげなくサポートをしている。また、定期的にアンケートを取り、好みの食べ物や季節感のある食事を提供している。時には外食や配食サービスなどの支援も行っている。	栄養管理士が1週間の献立を立て、外注により食材を確保、時に畑で採れた野菜も使い、職員と利用者で調理や配膳、後片付けをして楽しく食事が出来るよう工夫され、毎月1回は外食支援の日も設けられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体調と摂取量を把握し、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだり、医師、管理栄養士の指示、助言ももらいながら対応している。また、食欲のない方には適度な運動やタイミング、嗜好品等で食欲を促している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア、義歯洗浄等は日常で行っている。利用者の力を引き出しながら清潔保持、口腔機能の維持、向上に努めている。また、利用者によってはガーゼやスポンジブラシ等を使用し、乾燥や感染予防を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の身体状況や排泄パターンを把握し、羞恥心や不安への配慮をしながら行っている。失敗した場合にもさりげなくカバーしている。また、自尊心に配慮しながら利用者のサインを敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり歩行介助を行い、気持ちよくトイレで排泄ができるよう心がけている。	日々の個別記録により、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声かけをしている。夜間は紙パンツを使用されている利用者もあるが、希望者にはポータブルトイレにて排泄が出来るような対応もなされている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	各専門職からの意見や助言をもらいながら、食事、排泄、薬、活動状況等を見直し、便秘の原因を探ることで自然排便を促すよう働きかけている。また、必要であれば医師、看護師の指示のもと、無理のない下剤調整や浣腸等も検討している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の場合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者の希望に合わせた入浴をしていたり、時間や順番を考慮し、また入浴時には同性の職員や気の許せる職員が見守りを行う等の配慮もしている。入浴前のバイタルチェックや水分補給等の健康面にも気を配り、安心してくつろげる時間となるよう努めている。	入浴時間、回数は利用者の希望に沿って支援がなされ、入浴を拒否される方については、職員の働きかけやご家族の声かけ、時に入浴剤の使用等、種々工夫を凝らして気持ちよく、安心して入浴できるよう取り組まれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	これまでの生活習慣に沿ってより近い環境作りに努めている。また、その時々体調や希望にも柔軟に対応している。個々の体力を考慮し無理のない日中活動を促しながら、合間合間に休憩を取り入れている。昼夜逆転傾向のある方には、各専門職と相談しながら、夜間睡眠に戻れるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医、看護師による薬の勉強会を行い副作用、用法、用量について理解をしている。また、薬の処方や容量が変更されたり、本人の状態変化が見られる時には、より詳細な記録をとるよう外傷報告書やスケジュールボードに掲示し特に状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	潜在している記憶や出来る力を最大限生かして自分らしく暮らしていきける様に生活歴や経験を把握し、活躍できる場面作りを行っている。また、音楽療法や季節ごとの行事、地域のボランティア活動にも参加し、楽しみ事が増えるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	普段の散歩や買い物は希望に沿っていつでも出れるように支援している。距離の関係や重度の方でも介護タクシーを利用するなどして支援している。また、季節行事に力を入れ、全員で外出する機会も設けており、地域行事の時も家族、地域の方々にも協力していただいている。	利用者一人ひとりの希望に沿って、近辺を散歩したり、隣のカフェや地域のいきいきサロンに出かけたり、日常的に外出支援がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つ事の意味や大切さを家族、本人、職員とで話し合い、個々の力量を考慮した上で、少額でも所持金を持って頂いている。買い物に行く時は本人の手から支払えるように支援するなど、お金がある安心感や満足感を感じていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者用の電話を設置しており、いつでも使用できるよう支援している。日常の手紙、暑中見舞い、年賀状等も書いて頂いており、自分で連絡する事が困難な方でも、途絶える事のないように定期的にやり取りを行っている。また、プライバシーにも配慮しながら個別で支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じられる花や野菜作りを取り入れて、居心地良く過ごせるような環境にしている。リビングやバルコニーは風通しも良く、近隣の田んぼや電車の音が聞こえ、季節感を感じやすい、また、縁側や鯉の池、畳部屋など利用者世代には馴染みのある造りとなっている。照明類も落ち着いた空間作りに配慮している。	グランドピアノが「でん！」と据えられた洋のA棟、太陽の光が燦々と降り注ぐ広いバルコニーからは、悠然と泳ぐ錦鯉や庭の木々を眺め、寛げる和のB棟と、其々の空間で音楽に耳を傾けたり、オセロを楽しんだり、仲間や職員さんとお話をしたり、ゆっくりと時間が流れている姿が見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で一人になる空間とフロアで他の利用者と過ごすソファや椅子を置き、気の合う利用者同士がくつろげる空間を作っている。また、畳部屋を団欒スペースとして設けたり、バルコニーに椅子を設置するなどして、時々気分によって過ごせる場の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使いなれた調度品や使いやすい物を購入する等居心地良く、また、プライバシーに配慮して本人にとって安心できる雰囲気作りを本人、家族と共に築き上げている。	各居室のベッド、エアコンは備え付けとなっている。整理ダンス、テレビ、仏壇等以前から使い慣れた物、家族の写真や絵画、花等に囲まれて、利用者各自が、思い思いに落ち着いて過ごせるよう配慮が為されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各扉などに場所の説明やネームの札を設置し、設置の高さや文字の大きさ、絵を取り入れるなどして工夫している。また、個々の身体状態や能力、安全を配慮した上で、家具の設置や物の在りかを分かりやすくしている。また、状態変化があれば、家族、職員がその方の状態に合った環境作りを検討している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム夕顔の家

作成日 平成 24年 10月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		年間目標が具体的ではなく、また、経過状況の話し合いも出来ていない	具体的で達成可能な目標を立てる	定期的な進捗状況や見直しを行う話し合いを設け、最終的に評価を行い次に繋げる	3か月
2		運営推進会議開催日が平日という事もあり、参加者が少ない	多くの方々に参加していただく	開催日の見直しを行い、幅広い方々に参加を促す。また、意義のある会議を行う	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。